

2024 年度(令和 6 年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番27	福山市立春日小学校
最終更新日	2024年(令和6年)4月17日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ
<ul style="list-style-type: none"> 新しい時代に即した取組を行ってほしい。この先大変なことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張ってもらいたい。 地域とのつながりを大切にする子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。 中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。 中学校における長期欠席の生徒は全体の10.5%である。(R4全国平均3.8%) 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり 相手・目的意識をもたせた特別活動の充実 図書館を含めた学習環境の整備

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	ねばり強さ	
一人一人が自立し、社会に貢献できる人間の育成						
学校教育目標	めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。
こころゆたかに、自ら伸びる	めざす子ども像	中学年	自ら問いを見つけ、既習内容や方法で解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。
現状	めざす子ども像	高学年	自ら問いを見つけ、見通しを持って調べたり、考えたりしながら、解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。
<児童生徒> ・全国学力学習状況調査及び学びの伸びを把握する調査において、6年生以外は市平均以下であるなど課題が大きい。昨年度中途から毎月漢字検定、計算検定を実施することで児童が学習に取り組もうとする意欲が向上している。長い文章を読む力、ねばり強くじっくりと取り組むことにおいて課題がある。 ・自己肯定感・効力感が高い(90.2%)が、学年が上がるにつれ、減少傾向にある。指示されたことはできるが、授業や生活の場において、自分達で課題を見つけ、試行錯誤しようとする意欲は弱い。 ・運動が好きな児童の割合が高い。(90.7%) <授業> ・課題設定や導入等を工夫することで、児童が「やってみたい」と思える場面が増えている。しかし、思考場面においては、教師が主導で授業が行われているため、児童の学ぶ意欲が継続しない。 ・自分の考えを述べる際に、理由や根拠を付けて述べていないため、考えが広がったり深まったりしていない。	研究	テーマ	「わかる」「できる」「もっとやりたい」と子どもが学習にのめりこむ授業づくり			
	研究	内容等	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を踏まえながら、教科の面白さや本質に迫る教材研究 教職員が自己課題をもって取り組む授業研究・協議 生活科、総合的な学習の時間の系統的なカリキュラム編成および表現力育成などのルーブリック作成 			
	めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> 子どものつまずきが改善され、子どもが「できた」「わかった」、「もっとやりたい」と実感する授業 子どもの問いや興味関心から広がる授業 子どもが対話したり、考えをつなげたりしながら、学びを深めていく授業 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立春日小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
2	主体的に 学ぶ力の 育成	★	継続	・自ら学ぼう とする意欲 を育む。	・子どもたちが学 びにのめりこむ ような問いや単 元づくりを行 う。	・「もっと知りた い・学びたいと 思う」85%以 上								
			★	継続	・自らの目標 を決め、学び 方を考えなが ら学力の 定着を図る 授業づくり を行う。	・自分で選んだり、 決めたりするこ とができるよう な授業場面を設 定する。 ・「鍛える」時間 を授業や単元の中 に効果的に設け る。	・「授業が分かる」 「授業で考える ことが楽しい」 85%以上 ・学期末確認テス ト国語・算数 80点以上							
2	自らに自 信を持つ とともに、 相手を思 いやる心 の育成		継続	・自分の役割 を自覚し、課 題解決に向 け、協働して やり抜く力を 育む。	・学校生活の中か ら課題を発見 し、課題解決に 向けて児童が主 体的に考え、実 践していく。 ・行いの良さを褒 めることで児童 に良さの価値づ けを行う。	・「学級や委員会 で自分の役割を 果たしている」 85%以上 ・「自分には良い ところがある」 85%以上								
				新規	・相手意識を持 った言動をし ようとする態 度を育む。	・進んで挨拶する 児童をほめたり、 評価したり する機会をつく る。 ・丁寧な言葉遣い を見つけ肯定的 評価をすること	・「自分から挨拶を している」85% 以上 ・「相手を意識し 丁寧な言葉遣い をしている」 80%以上							

2	自らの生活を律するたくましい心と体の育成	継続	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体力づくりに取り組む態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や体育の授業を中心に、自らの目標を設定し、達成感を味わわせる。 意識的に体を動かす期日・期間を、委員会等と連携しながら計画・実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「体を動かすことが好き」80%以上。 「体育の授業以外で体を動かすことがある」80%以上 														
4	教職員がやりがいと充実感を持ち、元気に働くことができる環境づくり	継続	<ul style="list-style-type: none"> 教職員としての使命感を持ち、地域が誇れる学校づくりに向けた運営に積極的に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営面でもより幅広く教職員からの意見を求めながら参画意識を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事に意義とやりがいを感じている」教員90%以上 「自分の個性が認められている」教員80%以上 														
4	保護者から信頼される学校づくり	継続	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの満足度の高い学校運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が「学校が楽しい」と感じる学びづくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「春日小の取組に満足している」肯定的回答90%以上 														

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。